

「第3回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年7月22日（水）13時00分
都庁第一本庁舎7階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第3回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開催いたします。

本日も感染症の専門家の先生といたしまして、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生と、杏林大学医学部救急医学教室主任教授でいらっしゃいます山口先生のお二方にご出席をいただいております。後程、分析に関するご説明をしていただきます。

次第につきましては、お手元の次第に書いてあります通りに進行して参りますが、意見交換につきましては、報告のあった分析の内容に関することと、都の対応ということの二つに分けて、区分をして実施をしていきたいと思っております。

まず、「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、大曲先生からご説明をお願いいたします。

【大曲先生】

国際医療研究センターの大曲と申します。よろしくお願ひいたします。

私から感染状況についてご報告いたします。

まず、いつもお示ししているモニタリングの指標の横長の表でありますけれども、こちらからいきますが、感染状況に関して総括としては、前回と同じです。「感染が拡大していると思われる」としております。

コメントの総括としては、「新規陽性者数と接触歴等不明者数の増加が続いている。」ということとしております。

具体的にモニタリング項目をどう評価したかということで、別紙の1を用いてご説明いたします。

新規の陽性者数ですが、先週より増えております。緊急事態宣言下での最大値を超えているところであります。

厚生労働省は、「新たな患者推計を踏まえた医療提供体制の再構築」という文書を出しております。これにおける感染拡大防止のための社会への協力要請が必要であるとされている数ですが、患者数が人口10万人当たり2.5人/週、東京で換算すると50人とありますけれども、今回の数値はこの4倍を超えるところでございます。

年齢構成が今回の流行では非常に重要なポイントとなっております。

まず、参考までに第一波を申し上げます。3月1日から5月25日の緊急事態宣言解除後

までを第一波としますが、年齢構成別は、10歳未満が1.3%、10代が1.6%、20代が17.8%、30代が17.8%、40代が15.9%、50代が15.5%、60代が10.4%、70代が9.6%、80代が6.7%、90代が3.4%、100歳以上が0.1%でありました。

直近の週の7月14日から7月20日までの報告でございますが、10歳未満が1.8%、10代が2.5%、20代が45.5%、30代が21.7%、40代が12.9%、50代が7.1%、60代が3.9%、70代が2.3%、80代が1.6%、90代が0.7%でありました。

これを前週の数字と比較しますと、40代以上の全体に占める割合が28.5%と増加し、中高年層に感染が広がっていることを示しております。

感染経路でございますが、従来言われていた接待を伴う飲食店等だけでなく、施設内感染、同居している家族から感染、職場、会食、劇場等、多岐に渡っておりますし、高齢者への家族内感染も見られるところであります。

感染の広がり地域でございますが、7月14日から7月20日までの届け出保健所別の陽性者数を見ますと、多いところとしては新宿区、世田谷区、足立区、中野区、港区ほか、隣接する渋谷区、文京区、そして多摩地区にも広がっているという傾向が見られますし、地理的に広がっている傾向があるところでございます。

60代以上の新規の陽性患者は、地理的に見ますと、ほぼ都内全域で発生しているという状況であります。

また、いわゆる施設でございますが、介護老人保健施設、デイケア施設、幼稚園、保育園等での感染が見られております。こうしたところでの感染は、集団感染につながりかねないところで、施設内における感染防止対策の徹底が必要であります。

②であります。#7119における発熱等相談件数でございます。こちらに関しては、感染拡大の早期の予兆の一つとして、私たちは見ております。

第一波では、実際に患者さんがコロナの陽性患者が急速に増加する前に、この指標が増加したということがわかっております。

#7119の7日間平均は先週と比べて横ばいと判断をしております。

3点目、新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比でございます。

接触歴等不明者数は、7日間平均で122名でありました。緊急事態宣言下での最大値とほぼ同数でございます。

7月21日時点での新規陽性者数における接触歴等不明者数の増加比は、約150%でありました。増加比自体は、先週報告した数値よりもやや減少しておりますが、150%という数値は高いです。

接触歴等不明率の増加比がこのまま4週間連続しますと、接触歴等不明の新規陽性患者数は約5倍となります。試算をすると約610人/日程度発生する。

これと同じ増加比で、さらに4週間継続すると接触歴等不明の新規陽性者数は、現在の2約25倍になるという試算が出ております。

感染状況に関しては、以上でございます。

【山口先生】

引き続きまして、医療提供体制について、私から説明させていただきます。

まず、4番の検査ですが、検査人数は前週に比べて増加し、昨日4,639件にまで至っております。しかし、陽性率も緩やかに増加をしているところでございまして、要因といたしましては、新規陽性患者の増加と、陽性率の高い地域や対象に対してPCR検査等を積極的に促している影響と考えております。

次の東京ルールでございしますが、先週から平均30件前後の高い水準で推移しております。

一番大事な6番の入院患者数です。入院患者数は、昨日現在949人と、先週に比べまして約1.4倍に増加しております。

これに対しまして、7月7日には都の依頼に基づきまして、病院は、中等症をレベル2の2,700床、重症はレベル1の100床の病床の準備を進めているところでございます。

しかし、保健所が、みずからの管内で調整がつかないため、やむなく都庁に調整を依頼している件数は、1日平均約100件、今日は120件と、先週の2倍以上に増えておりまして、入院の調整に非常に困難が生じていることがうかがわれます。

また、症状の陽性者が全体の15%程度を占めていることから、病床の確保と同時に、宿泊療養施設の確保も非常に重要でございまして、これについては急ピッチで進めているところでございます。

重症患者数、7番でございしますが、先週の6人に対して14人と、数としては少ないですが、倍増しております。

重症化リスクの高い高齢層に感染が広がっているほか、40代、50代の重症例が散見されていることから、今後の推移には警戒が必要だと考えております。

以上のことから、医療提供体制につきましては、オレンジの「体制強化が必要であると思われる」と判断いたしました。

しかし、これをもって、昨日も国のリーダーが使われた「東京の医療は逼迫していない」というのは二つの観点から誤りでございます。

一つは、病床の拡大には2週間以上の時間が必要です。病床のレイアウトを変えたり、医療者のシフトを変えたり、感染防護対策を徹底したり、すでに入院している患者さんを他に移動させたりする、大変な作業でございます。したがって、少なくとも2週間先を見越して、現在の状況を評価する必要がある。これが責任ある評価だと思うわけです。

150%の増加率で患者が増加している状況、重症者が倍増している状況から、とても逼迫していないとは申し上げられません。

二つ目は、ベッドが確保されているということが、イコール患者を入院させられるということではないこととでございます。コロナ患者の入退院には、通常の患者よりも多くの手間がかかります。手続き、検査、消毒、多くのマンパワーも必要でございます。

マンパワーですが、何より対応の長期化で、医療は本当に疲弊しております。このため、特に週末や祝日などにおいては、空いているはずの病床に、患者さんが入院できないという

現象が生じているわけでございます。

したがって、今回、医療提供体制については、赤ではありませんが、医療関係者をはじめ、都の職員、保健所、ホテル、様々な人の努力やご苦労によって、何とかオレンジで踏ん張っている、こらえていると、知事にはご理解いただきたいと思います。

こうした現場の労苦に対する想像力を持たない方に、赤ではないということで、大丈夫だから、皆さん遊びましょう、旅しましょうという根拠に使われないことを切に願うものでございます。以上です。

【危機管理監】

大曲先生、山口先生ありがとうございました。

それでは、意見交換に移りたいと思います。

まず、ただいま両先生からご説明のありました、分析の内容につきましてご質問、ご意見等ある方がいらっしゃいましたらお願いをいたします。

それでは梶原副知事、お願いいたします。

【梶原副知事】

先生方ありがとうございます。

先週、第二波のことについて、ご質問をさせていただきました。

先週よりもさらに新規陽性者数が増えている状況の中で、我々としては、第二波という心構えを持って、今の状況に当たる必要があると考えているわけですが、先生方のご認識、どう思われているのか、お聞きしたいと思います。

【大曲先生】

お答えいたします。

おっしゃる通り、前回も申し上げましたけれども、現状で、いわゆる第二波と言われるような患者の爆発的な増加が起きているかどうかは、非常に判断が難しいと思います。

今回は、データとして東京都のエピカーブで、発症日ごとのデータも出していただきました。資料の後ろから2枚目でしょうか。

報告数と発症日ごとのデータと、診断日・報告日ごとのデータは、ずれてしかるべきものでありますが、発症日ごとのデータを見ても、これから積み上がってくる、これから遅れて診断され、報告されてくる患者さんのことを考えてみても、患者さんが減っているとは、とても言えないと思います。言える要素がないといえますか。

一方で、先ほど山口先生がおっしゃいましたけど、平均で言っても、232.4人の患者さんが毎日報告されてきているわけでありまして、患者さんにどう医療を提供するのか、どう療養の場を提供するのか、そのためにどう調節するのかという意味での負担は極めて大きいです。その意味での負担は、前回を超えていると思って見えています。

もう一つは、今日やった努力というのは、最近は診断までの時間が少し短くなりましたので、11日後から14日後に見えてくるわけですが、先ほど山口先生もおっしゃったのですが、その時のことを私たちは見越して対策をしなければいけないと思っています。

対策がうまくいかなければ、もっと軽症でも多くの方が報告され、やがては一番危惧する重症の方が報告されることになります。

その時に私たちはどう対応できているかということを求められていると思いますので、話が長くなりましたが、第二波だとしても対応できているという心構えが必要ですし、そのための準備と対応が必要と思っています。

【山口先生】

私の方からも、お答えさせていただきます。

私は今こそ、都民と医療との間の信頼関係が必要だと思います。

医療は逼迫をしていない。だから遊びましょう、旅しましょうということが、現場の疲弊している医療者にどう響くかという想像力を持っていただきたいと思います。

もちろん、医療者は都民のために、給料が減ったり、ボーナスが未払になったり、色々な思いを抱えながらも、何とかしようと努力しています。

その一方で、都民の側も、できるだけ感染者を出さないにしようという、お互いの信頼関係があってこそ、この波を乗り越えられると思います。

ですから、第二波かどうかわかりませんが、今は少なくともそういう心構えで、みんなで乗り切りましょうという姿勢をぜひ発信していただきたいと、現場からは思います。

【危機管理監】

ありがとうございます。

他にご質問等ございましたらお願いします。

知事から何か今の分析の件についてございますか。

【都知事】

山口先生がおっしゃったこと、医療の現場の皆様方のご努力があつてこそ、例えば重症者の数が前回と比べても、つい最近まで1桁に抑えられてきた。これも現場の皆様方のお力があつてこそだと思います。

また、おっしゃいましたように、病床確保と言っても、それは物理的な話だけではなく、基本的に、人材、そこにかかる精神的なプレッシャー、そういったことがあつて、物理的にも、部屋の建付けを変える等が必要であると聞いております。

今回、皆様方のご協力もあつて、かつてのようなレベル2を目指して、かなりのところまで、ご協力をいただくことになっておりますが、これも皆様方の、都民の命・健康を守るという使命感と、それから都に対してのご協力の賜物であり、そのためにも陽性者の報告を出

さない、特に高齢者に拡大をさせない。そのような戦略的な対応が必要だということを、モニタリング分析の結果、改めて痛感をしたところでございます。

厳しい局面ではございますが、特にこの連休中は、医療現場も特に厳しい状況にあるということも踏まえまして、しっかり対応していきたいと考えておりますので、引き続きのご協力よろしくお願いいたします。

【危機管理監】

それでは意見交換の後段になります。

先ほどの分析結果を受けての都の対応というところに移ります。

何かご質問やご意見等ある方はいらっしゃいましたらお願いをいたします。

特段ございませんか。

先ほど、先生方からは、第二波の心構えとそれに応じたしっかりした対応が必要だという話と、都民の皆様にも、今の厳しい医療現場というものを考えながら、意識をしながら、行動していただきたいというような話があったところですので、今後、そういうことも意識をしながら、都民・事業者の皆様呼び掛けていきたいというように考えているところです。

それでは、まとめといたしまして、最後に知事からご発言をお願いいたします。

【都知事】

改めまして、大曲先生・山口先生におかれましては、ご多忙のところ第3回東京都コロナウイルス感染症モニタリング会議にご出席を賜りまして、ありがとうございます。

専門家の先生方からは、先週に引き続き、感染状況・医療提供体制、それぞれ分析を行っていただきました。

感染状況については、ご報告いただきましたように、4段階のうち最高レベルの4段階目「感染が拡大していると思われる」、医療提供体制については、4段階のうち3段階目で、「体制強化が必要であると思われる」との総括コメントいただいたところでございます。

この専門家の皆様方のご意見を踏まえまして、モニタリング会議のまとめといたしまして、感染拡大の防止について、改めて都民の皆様、事業者の皆様をお願いをして参りたいと考えております。

まず、感染状況については、先ほどのご報告の通り、若年層に加えて、中高年層にも感染が広がっている点。また、感染経路であります。接待を伴う飲食店等だけではなく、施設内感染、会食、劇場等の多岐に渡っているという点。

都民の皆様方にはその意味で、外出するなら感染の予防と感染対策を万全にしていきたい。

また、外出はできるだけ控えていただくようお願いをいたします。

特に高齢者や基礎疾患のある皆様には、重症化リスクが高いことから、外出は控えていただきたいと存じます。

感染者の多い20代、30代の皆様ですが、本人が自覚しないうちに、感染を拡大させているという恐れもあります。よって、「感染しているかも」という意識で、十二分に注意しての行動をお願いしたいと思います。

それから事業者の皆様でございます。ガイドラインを守って、感染防止徹底宣言ステッカーの掲示をしていただくように、お願い申し上げます。

利用者の皆様には、ガイドラインを守らないお店の利用については、避けていただきたいと存じます。

次に、医療提供体制についての分析もご報告いただきました。いただいたコメントも踏まえまして、引き続き体制の強化を図って参ります。

患者受入れ体制ですが、7月7日、都内の医療機関に対しまして、「重症患者用はレベル1の100床、中等症患者用はレベル2の2,700床の病床確保をいただく」ように要請を行って、その結果、先ほどの山口先生のご指摘のように、大変な医療機関のこれまでの経験や、医療従事者の思い、それらを超えてご協力をいただくことで、現在、約2,400床の確保にまで至っております。

改めまして現場の皆様、医療関係者の方々には、深く御礼を申し上げます。

それから、無症状や軽症の方々が増えているということで、対応して参りまして、7月16日に豊島区のThe B 池袋というホテル、明日23日には、江東区のデイ ナイス ホテル東京を開設いたしまして、宿泊療養施設の充実を図っております。

加えて、月末までに、更に3つの施設、約1,500室を開設できるように準備を進めてお参りまして、合わせますと2,000室を超える部屋数の確保ができる見通しとなっております。今後も、さらなる確保に取り組んで参りたいと存じます。

都民・事業者の皆様のご協力無しには、これ以上の感染拡大を食い止める方法はございません。

改めて、「感染しない、させない」行動の徹底を強くお願い申し上げたいと存じます。

本日のモニタリング会議、皆様方のコメントを参考にいたしまして、都民・事業者の皆様に強くお願いをして参りたい。特に、4連休を控えておりますので、この間の行動につきまして、お願いを発していきたいと考えております。本日もどうもありがとうございました。

【危機管理監】

以上をもちまして第3回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。どうもありがとうございました。